

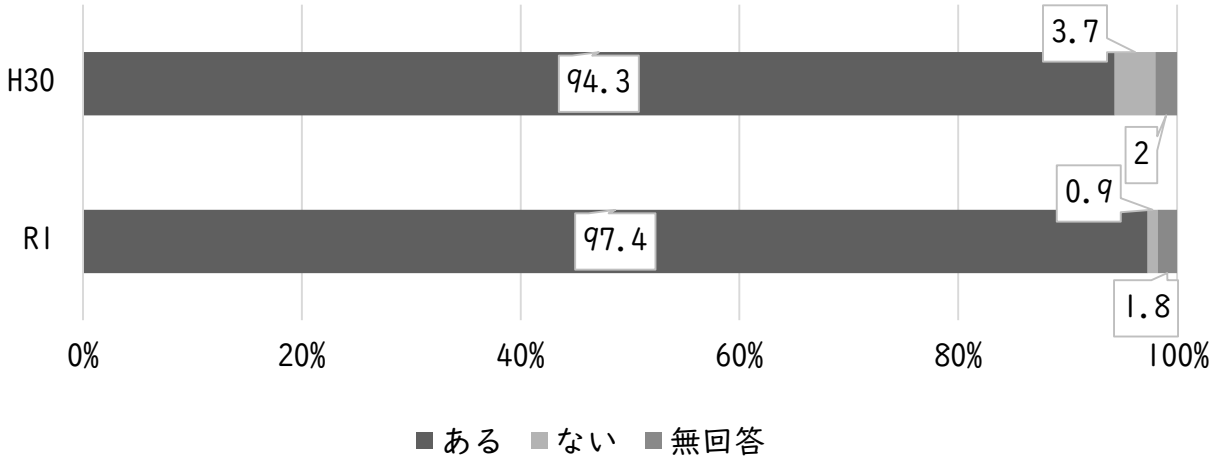
令和元年度市民意識調査(※庁舎建設分 速報値)

- (1) 調査時期：令和元年12月下旬～令和2年1月15日
- (2) 調査対象：行方市在住の18歳以上の男女1,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
- (3) 調査方法：郵送による配布、回収方式
- (4) 調査項目（庁舎建設に関する項目）
- ◇ 各庁舎への来庁頻度
 - ◇ 庁舎を訪れたときの滞在時間
 - ◇ 庁舎を訪れた際、他に立ち寄られた場所
 - ◇ 来庁された理由
 - ◇ 来庁時の交通手段
 - ◇ 庁舎の施設面や環境面での不満や不便
 - ◇ 庁舎に必要な基本的な機能・役割
 - ◇ 新庁舎を建設する場合に、特に重要だと思われること
 - ◇ 庁舎の付加的な機能として、あればよいと思われること
- (5) 回答結果（令和2年2月3日現在）
- ◇ 回収数：340部（回収率：34%）

◇性別	男性	女性	無回答				
	157人	182人	1人				
◇年齢	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	無回答
	31人	31人	53人	46人	95人	83人	1人
◇居住 地区	麻生	北浦	玉造	無回答			
	134人	81人	110人	15人			

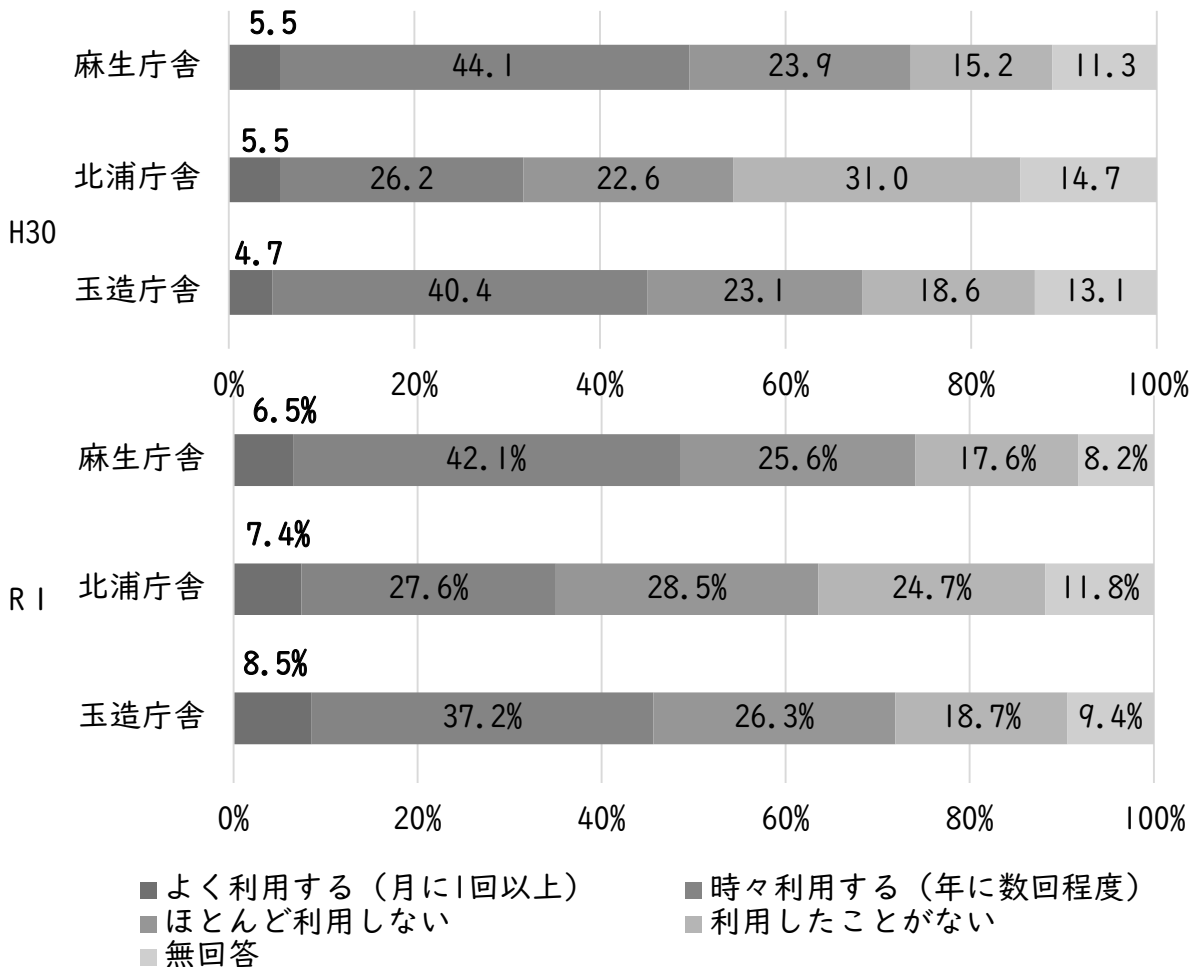
市役所への来庁経験の有無

市役所への来庁経験をみると、「ある」が9割を超え大多数を占めている。



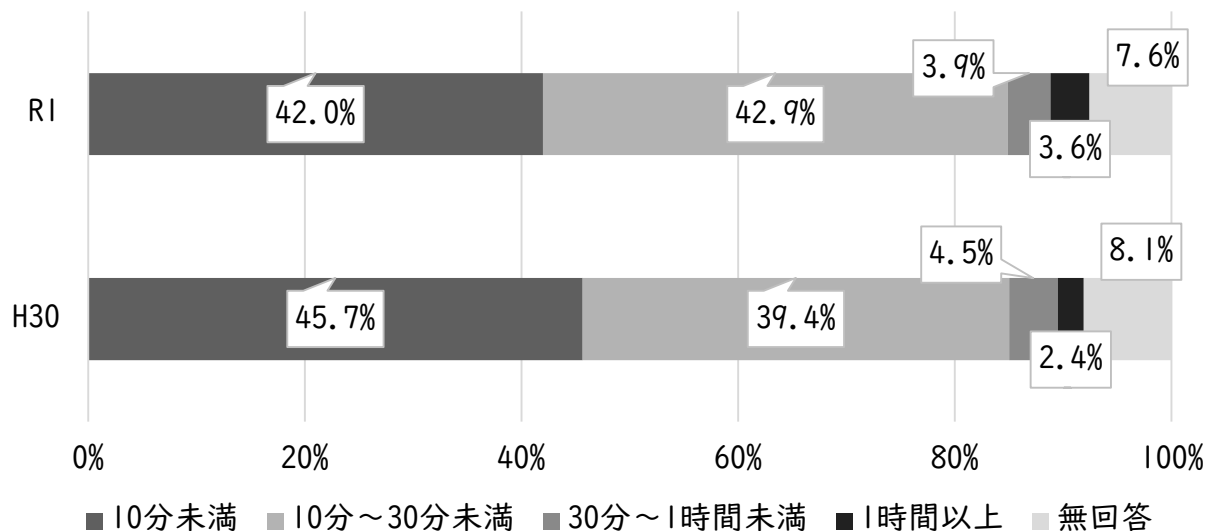
どの庁舎を利用しているか。（家族送迎除く）

『麻生庁舎』と『玉造庁舎』では、「よく利用する」と「時々利用する」を合すると4割を超えているが、『北浦庁舎』は4割を満たさない。



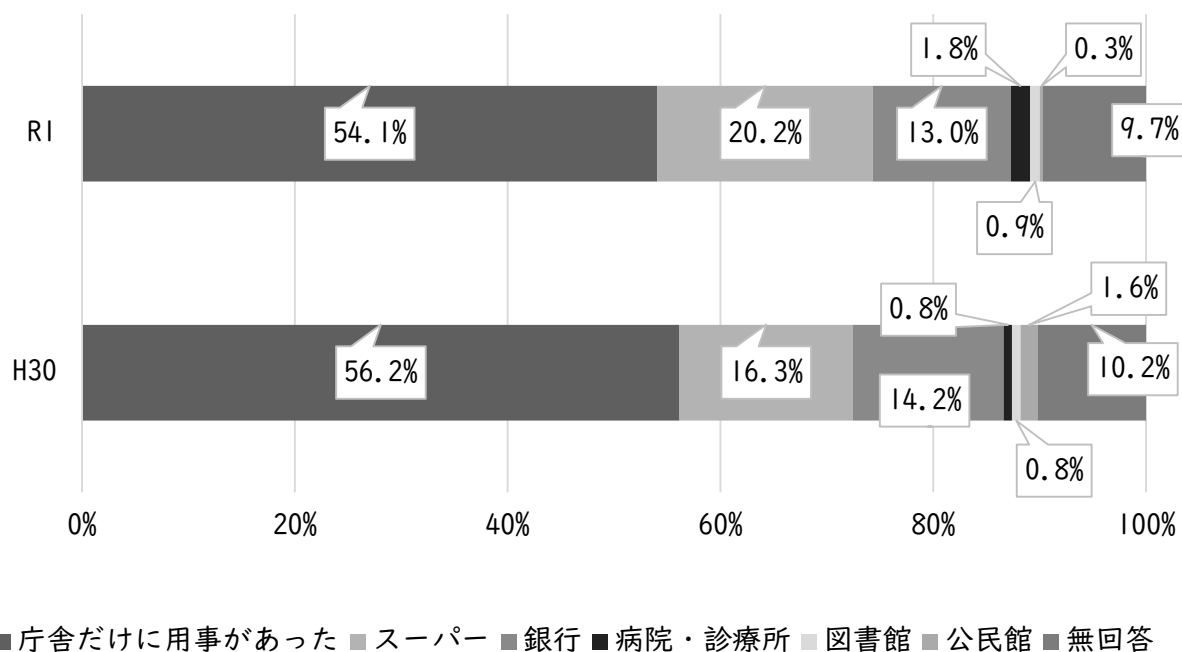
庁舎を訪れたときの滞在時間

来庁時の滞在時間をみると、両年とも、「10分未満」が4割を超えている。
また、両年とも、この2つを合わせた「滞在時間が30分未満」の人が8割を超えている。



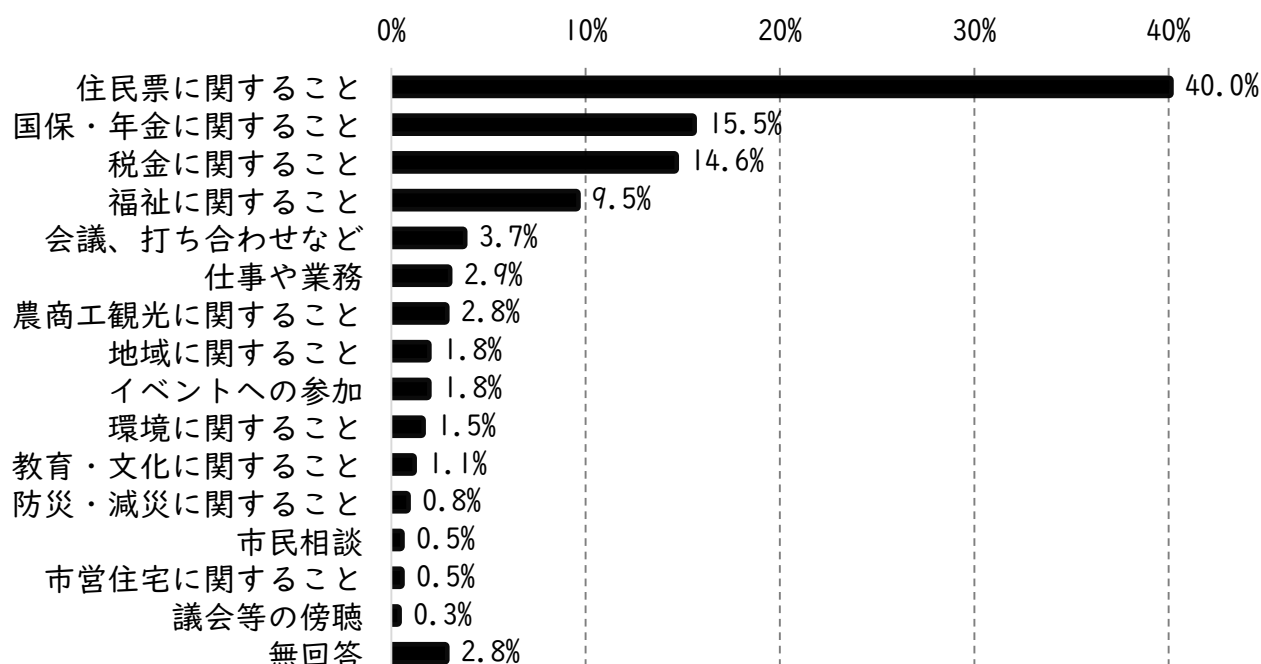
庁舎を訪れた際、他に立ち寄られた場所

来庁時に立ち寄った場所をみると、両年とも、『庁舎だけに用事があった』が全体の5割を占めている。次いで、『スーパー』、『銀行』に立ち寄る人が多い。



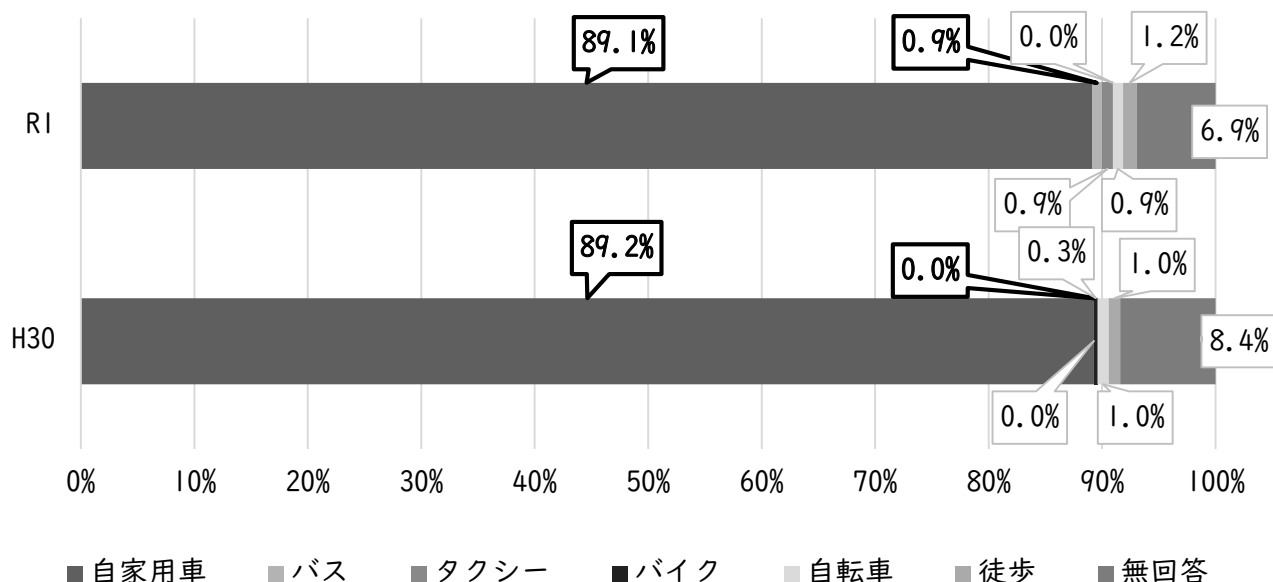
どのような用件で庁舎を訪れたか。

『住民票に関すること』などの諸証明に関することが4割を占めている。次いで、『国保・年金に関すること』、『税金に関すること』が、1割を超えている。



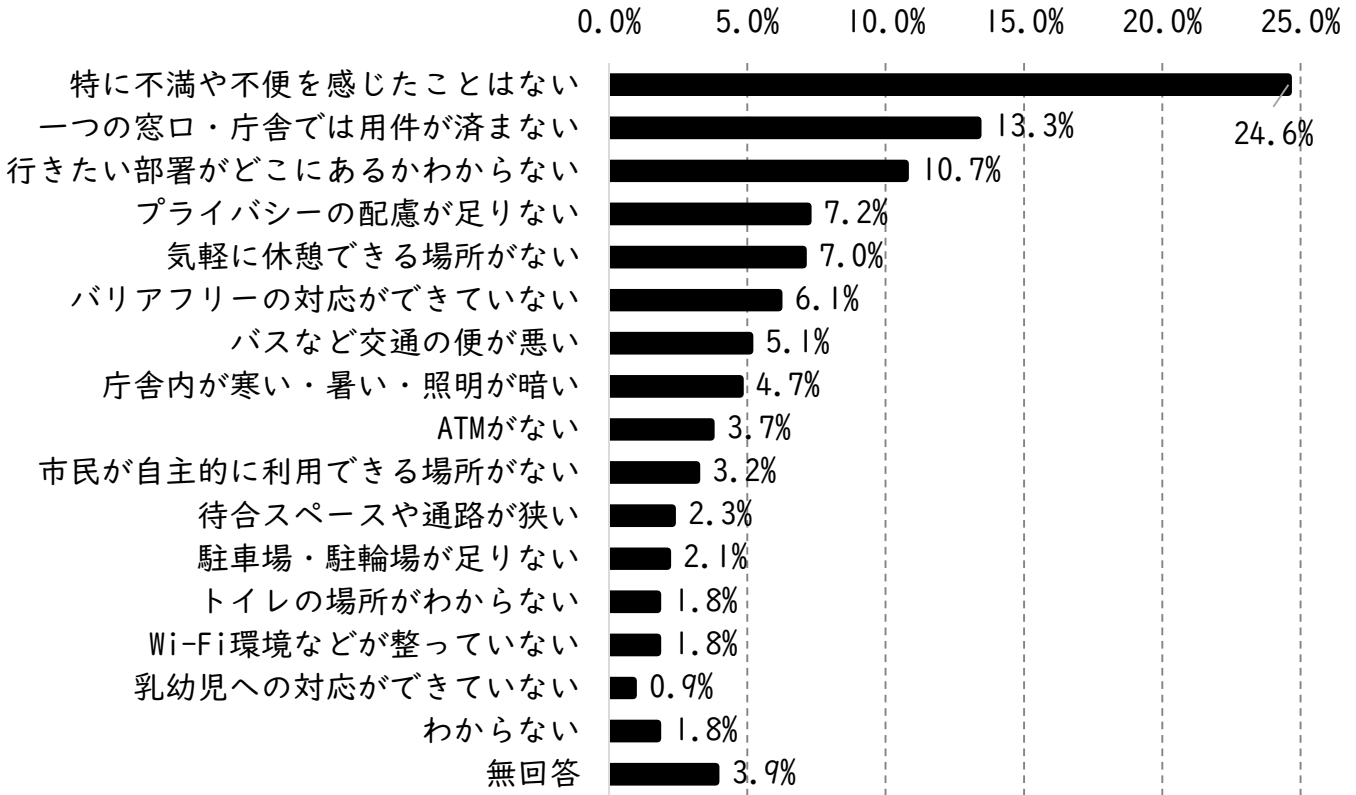
来庁時の交通手段

『自家用車』を利用して来庁する人が、全体の9割近くを占めており、その他の交通手段はほとんどみられなかった。
令和元年度から、市営路線バスが各庁舎を回るようになったところ、昨年より割合は増えているが、全体の1%を満たない。



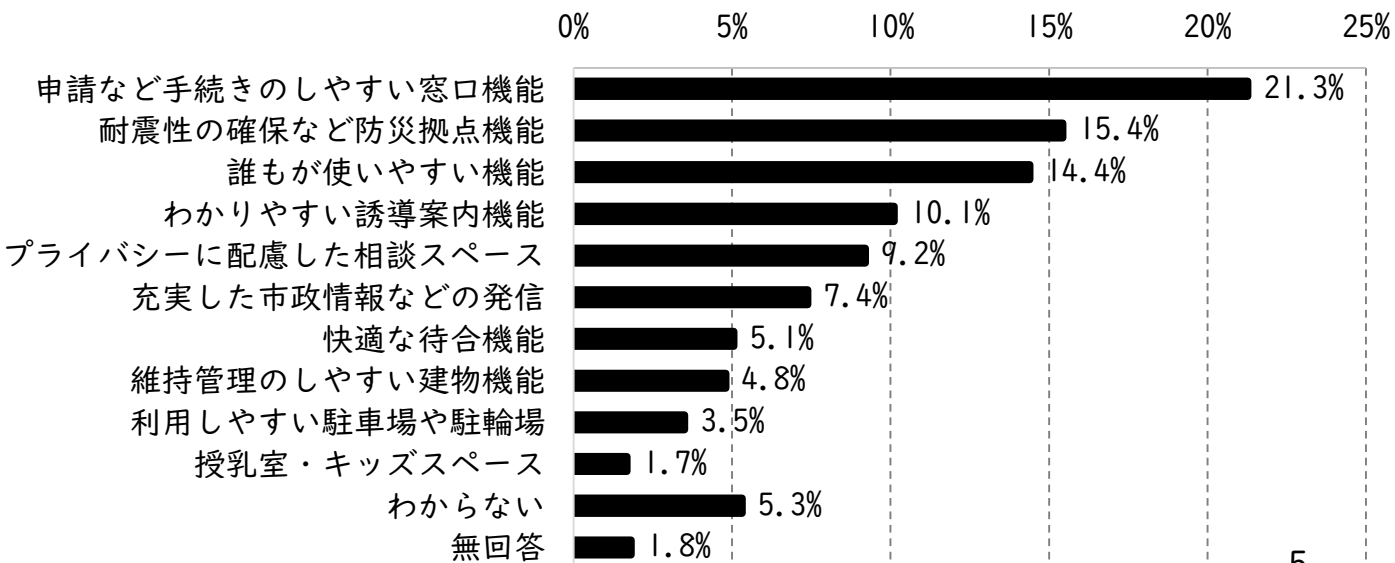
庁舎の施設面や環境面での不満や不便

『特に不満や不便を感じたことはない』という回答が、3割程度を占めているが、『一つの窓口で用件が済まない』、『行きたい部署がどこにあるかわからない』というような『庁舎の分散配置による問題』に不満を感じている市民の方が多い。
また、『プライバシーの配慮が足りない』、庁舎の中に『気軽に休憩できる場所がない』という不満を感じている市民も多い。



庁舎に必要な基本的な機能・役割

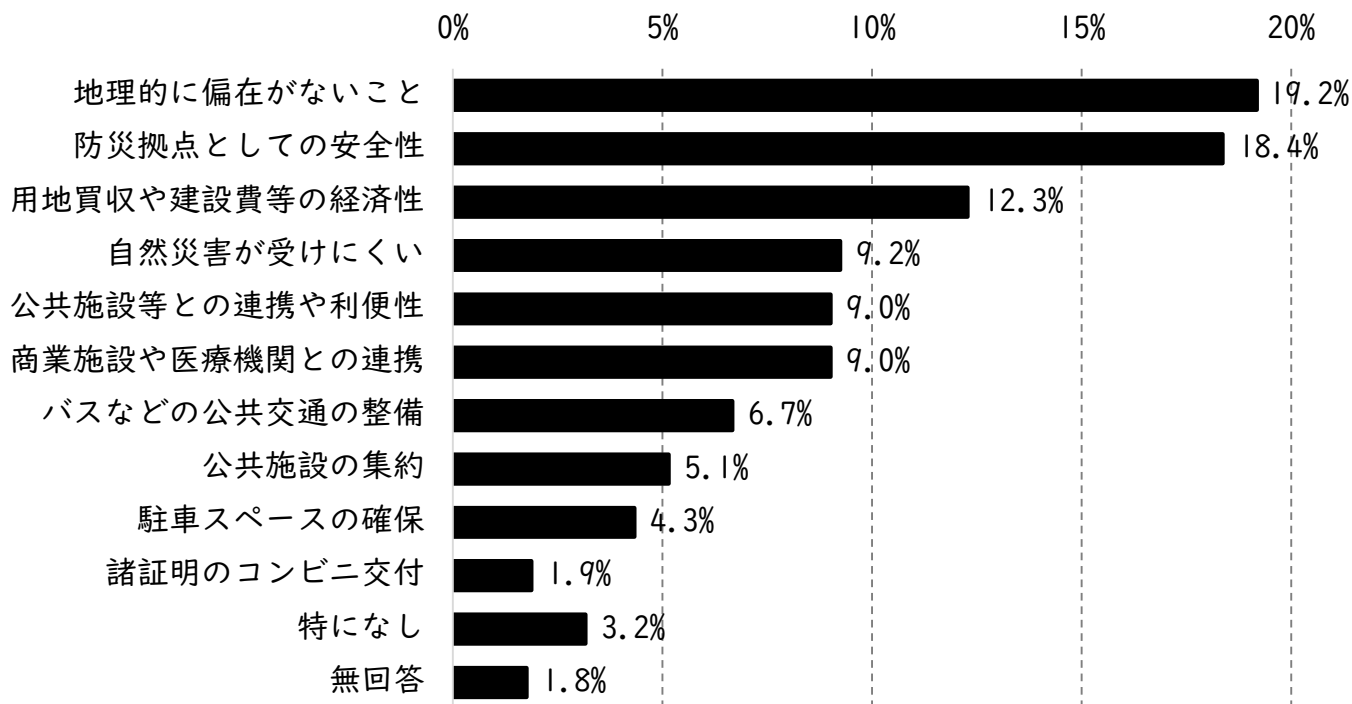
市民サービスに直結している『申請など手続きがしやすい窓口機能』が、庁舎に必要なと感じている市民が多い。また、最近の自然災害の影響で、『耐震性の確保など防災拠点機能』を求めている市民が多い。



新庁舎を建設する場合に、特に重要だと思われること

『地理的に偏在がないこと』や『防災拠点としての安全性』が、それぞれ全体の2割近くを占めており、新庁舎建設に必要なだと思っている市民が多い。

その他、『用地買収や建設費等の経済性』を重要だと思っている割合が多いことから、本市の厳しい財政状況から将来に負担を残さないようにと考えている市民が多い。



庁舎の付加的な機能として、あればよいと思われること

庁舎に『防災拠点機能』を求めている市民が多いことから、付加的な機能としても、『防災に対応した避難所機能』を求めている市民が多い。

その他、『売店や飲食スペース』や、『金融機関』などの機能をあればよいと思っている市民も多い。

